

「故郷のために」と奔走してきた今西氏。しかし、その故郷の人たちからあがつた反対の声。その相反する思いに挟まれて、このときばかりは、今西氏も心を痛めていたと言います。

ついに、開通へ

何度も困難にぶつかりながらも決して自らの夢を諦めなかった今西氏。そのねばり強さと、何事にも屈しない度胸で住民の人たちを説得し、ついに大正3年10月、宇和島く近永間に汽車を走らせました。

その後、大正12年12月12日、近永から出目く松丸く吉野への鉄道が開通。この全線開通から今年で90周年を迎えます。

今、直面する危機

現在、利用客の減少が問題となっている予土線。かつて、「故郷のために鉄道を」と奔走した今西幹一郎氏。その熱い思いでさまざまな困難を切り抜け、念願叶って開通された予土線に、「もう一度かつての

賑わいを」そんな思いで、現在、町では近隣の市町とともに予土線の利用促進に尽力しています。

汽車に揺られながら南予の民話に耳を傾ける「宇和島コトコト民話語り」、予土線沿線の地域のさまざまな特産品を集めた「予土線！特選!!グルメ市」などのさまざまなイベントが開催され、それらを通して予土線の魅力を満喫できます。

また、平成25年10月5日には、これまでのトロッコ列車がリニューアル。「しまんトロッコ」と名称も新たに、これまで以上に鬼北地域の田園風景や雄大な自然を体感させてくれます。

私たちにできること

さあ、みなさんもたまには汽車に揺られながら、出かけてみませんか。出かけてみませんか。

ゆつくりと流れているかのように感じる時間の中、その車窓から見える田舎の景色、乗客同士の交流、思わぬ発見がそこにはあるかもしれません。

たまにはのんびりと、時の流れに身を任せて――

自信を持ってお迎えできる駅に



村住 稠さん

68歳 国遠

Murazumi Shigeru

平成19年より近永駅に勤務。

これまで近永駅に勤務してきた中で、お年寄りや身体が不自由な方が利用することが多いなということや日々実感しています。しかし、昔ながらの駅そのままの近永駅では、トイレや段差など、そういった方々に優しくない施設となっているのが現実です。

私自身、出来る限り周囲に目を配り、これまで何度かお年寄りや障がい者の方々が危険な目に合いそうになるのを手助けしてきました。そのときにかけてもらう「助かりました」の言葉に嬉しくなると同時に、私たちの仕事の必要性を痛感しています。お年寄りや障がい者の方々が危険にさらされる現状がある中で、近永駅を無人駅にしてしまうわけにはいかないと思っています。

また、汽車を移動手段として利用する人がいる限り、絶対にそれを奪うようなこともしてはいけません。最近では利用者も減り、一日平均20人程度のときもあり寂しく感じますが、ここを利用してくれる方がいる限り、走り続けてほしいと願っています。

う反面、せっかく来てくれたのですから、駅周辺の施設が自信を持っておもてなしできるような環境であってほしいと願っています。

国鉄勤務時代に培った「安全第一」という精神。お客さんの安全を守るとともに、安心して窓口に来てもらえるよう、「明るい気持ちでお迎えする」その心掛けを常に胸に刻んでいます。



く走まこの
続をれて民
からこし町
駅が、その支
近永線汽車の
線路、の、か
るで、れ、生
活